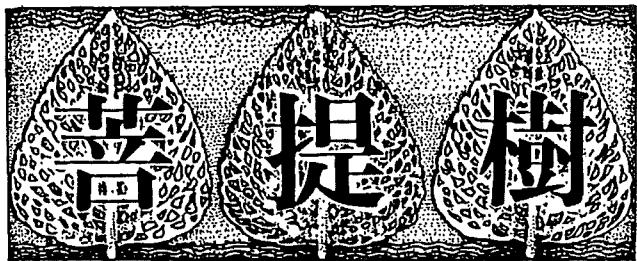


園章デザイン 人間国宝 田村耕一先生

第十一号



発行者／学校法人 呑龍愛育会  
呑竜幼稚園  
栃木県佐野市大祝町2312  
TEL 0283 (22) 0149  
FAX 0283 (24) 8569  
編集責任者／小林研究会  
保護者会広報  
題字デザイン／足利短大教授  
武井宏允先生  
印刷所／荒畠印刷所



## 庭がステージ 今年の運動会のテーマは「探検」

幼 献  
園  
革 命  
小 林 研 介  
林 開

幼稚園とはいったい何なのでしょうか。実はあるお父さんがこう言つたことを良く覚えていました。「幼稚園は学校としては今、日本で一番進んでいると思いまよ。それはつまり親から見ると子供のために選べる唯一の学校であるということなのです。それもいろいろタイプがあります。そしてどこでも入れてくれるわけですから。」なるほどそういうことなのかなと思いまし。確かにそう言わればそうです。選択の自由と個性があるのが幼稚園、それも私立幼稚園の持ち味とも言えるかも知れないと。しかし幼稚園はそれだけで良いのかといふ思いもあります。大袈裟ですが幼稚園はいつたい何ができるのか。何のためにあるのか。社会の中でどんな役割をになつてやけるのか。そんなことをもつと幅広く深く考え、実践しなくてはならないことがあります。これはなかなか難しいことなのです。ある人は文字や数も早くから教えるべきだと言います。またある人は、おもいやりの気持ちだとも言います。しつけが大切、主体性を育てる。どれも大切なことで内容は多岐にわたります。もちろん呑竜幼稚園でも何を大事に教え、育てるかはありますし、新入園の時には保護者の方々には特によく説明します。それが幼稚園の個性というか顔ともいえます。育てるかのだからです。これについては他でも述べていますから繰り返しませんが今ここで考えたみたいことは幼稚園教育の内容でなく、幼稚園の持つ幼児の教育以外の大きな可能性についてです。

日頃感じていることを正面に述べますと、子供の幼稚園入園はお母さんにとってもデビュー

の時かもしれないと思う時があります。つまり子供が入園を期にその世界を広げるのと同じようにお母さん方もたくさんの世界を広げるような、そんな意味があります。お母さんたちは、結婚という事を通してその配偶者である夫の世界に入ってきたままで世界と結びついています。もちろん夫もそれと同じ事が言えて、妻との共同の世界には入ります。しかし、多くのお母さんたちは仕事を通して今までの世界と結びついていますが、お母さんたちは結婚から出産といつ一連の流れの中でいつた今までの世界の結びつきがなくなるようです。(そうではない方もいます) そうした中子供の幼稚園入園は、新しい世界へのデビューとなるかのようです。出産以来初めて履くハイヒールが入園式なんですよなんて冗談を言つてたお母さんがいましたが、それはオーバーでなくそれまでは、いかに家中で子供と向き合っていることが多かったかという事です。ですから入園はお母さんが我が子との個別的な子育ての枠、そして生活の枠を広げて行く時とも言えるのです。

幼稚園はその意味でお母さんにもっと多くの居場所と活躍のチャンスを提供したいと思ってます。我が園の運動会での行動力や発想は今や伝統ともなっていますし、保護者会の係である広報、研修、新年会等々どの分野でもその力はいかんなく發揮されています。また組織をこえて気の合う皆さんが昼夜に、お集まりになつて、いつも知つておられます。日曜、夜、お母さんたちが、そしてお父さんもが自分の良さや特技を出し合って、自分のため、子供のため、みんなのため、街のため生き生きと活動できる場所の一つになる。そんなお手伝いをすることがあります。

幼稚園が児童の教育機関だけではなく親子共に育つといつ意味での「共育」の場になることに努めることがこれから益々大切となり、時代としての要請でもあるでしょう。また、子育て中のお母さんたちが、そしてお父さんもが自分の良さや特技を出し合って、自分のため、子供のため、みんなのため、街のため生き生きと活動できる場所の一つになる。そんなお手伝いをすることがあります。

「幼稚園革命」とは大それなものではなく、我が園の園庭の片隅や和光殿でのお母さんたちの笑い声の中にあるものかもしれません。呑竜幼稚園のお母さん

方は、まさしくなくデビューしています。それは個室の子育てから広場の子育てへのデビューです。

神奈川県のある幼稚園の園長先生は、素敵なお母さんでもあります。「あなた良くやつていらりやない」という一言がお母さんたちに力を与えるとおっしゃっていました。またその一言は子育てのパートナーであるお父さんもつと言つべきであるとも付け加えられました。私を含めてお父さんたちにはそこのところは肝に銘じお願いしたいところです。

ただし、広場で子育てをしていると、こうしたお母さん同士の「激励」や「認め」がとても多いようです。またそれがそのままに嬉しそうに見ています。そのための隠された才能が發揮されることがあります。子供はそんなお母さんの輝く姿を本当に嬉しそうに見ています。幼稚園にそんな場所になれるは必ずし、なるべきでしょう。

子育ては親がしますが、親は子供によつて育てられるということがあります。また多くの子育ての仲間によつて支えられることもあります。

幼稚園が児童の教育機関だけでなく親子共に育つといつ意味での「共育」の場になることに努めることがこれから益々大切となります。

お母さんたちが、そしてお父

さんもが自分の良さや特技を出

し合つて、自分のため、子供の

ため、みんなのため、街のため

生き生きと活動できる場所の

一つになる。そんなお手伝いを

することかもしれません。

呑竜幼稚園の園庭の片隅や和光殿でのお母さんたちの笑い声の中にあるものかもしれません。



ゆり 10月

## 棒引き(秘)作戦

残念ながら負けてしまいましたが、ユニークでなかなかなるほど…と考えさせるような作戦を立てました。

- ①かけあしの速い圭吾君、章貴君が両サイドで頑張り、端の棒は2人にはまかせる。
- ②「あっ、飛行機だ」と嘘を言い、上を向いた瞬間に取ってしまう。
- でもこれは、あまりひっかかるないということで却下
- ③押す方法もある、ということは経験の中でわかつてきただが、皆が押すことに専念してしまうと、返って逆効果になることもある（祥太君の説）
- ④他の棒を引っ張る手助けに行く時は、どの棒が助けを必要かを良く見る必要がある（直貴君の説）

棒引きという競技が楽しく、しかも勝ちたいという気持ちから、子供たちが考えた作戦です。前回もお知らせしましたが、まさしく賢い頭と体と心を必要とする競技。春竜年長児の伝統行事となっているゆえんです。

## 百萬クラスだより「スペシャル号」

春竜幼稚園では毎月各クラスの先生たちが子どもの姿をヴィヴィッドにおうちの方々に伝えるクラス便りを発行しています。その楽しさを少しだけ紹介いたします。

### 年長さんの特権

#### ～係の活動～

年長さんになって、これが一番の楽しみになっている子が多いようです。「いつやるの？」と、とても楽しみ。いざ始まるごとに物おじせずに、せっせとチャボの世話をしている磨桜ちゃん。まるでチャボのお母さんのようですね。満菜美ちゃんはたいてい散歩にもつれていってあげるんですよ、私は少々（？）苦手なのでみんなの姿を見てビックリです。カメにもニボシをあげているのですが、「全部で五こあげてね」というと、いる人数で顔を見合わせて、「ボクと～ちゃんと～ちゃんと…何びきになったね」と、子ども達なりに考えてあげているんです。遊具もきちんと考えて一つも残らずがしてかたづけるんですよ。あたりまえのことですが、頭が下がります。またその中で数に対する興味、関心がむいたらと考えています。

ふじ 4月号



#### おいしかったね、たのしかったね



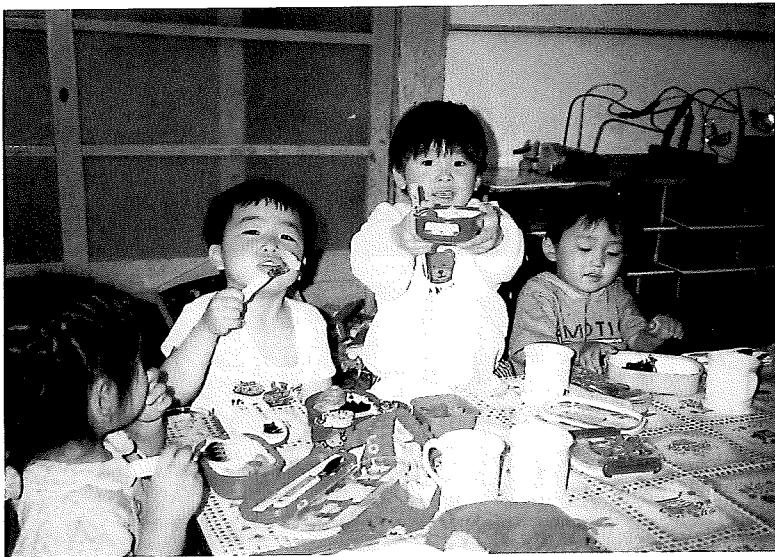
りす 12月号

17日のおもちつき大会では、ふかしたもち米を見て・味わって、これがおもちになるんだよ、と言つても"いつも食べる御飯と変わらない"の返事。ところが、いざ杵でつき始めると「うわあー、やりたい、やりたい」そして子ども用杵でみんなでついたのでした。

ところがさあ食べようとなると「これいらない、おしょうゆでたべる」という声が多く、あらもったいないと残りはお家のプレゼントとなつたのでした。プレゼントというと、この日サンタクロース&トナカイ&ツリーが園にやってきて、みんなにお菓子のプレゼントがありました。（保護者会の企画と実行というもの）私もまったく知らずに子どもと一緒に喜んでしまいました。ひかりちゃん、あやとくん、れおくんはもらったお菓子を抱いてびょんびょん跳んで喜んでいました。

残念ながらお休みしてしまった子にもお菓子を確保しておりますので、ちょっとサンタさんには会えませんでしたがガマンして下さいね。

○誕生日の子のお母様、お手伝いご苦労様でした。



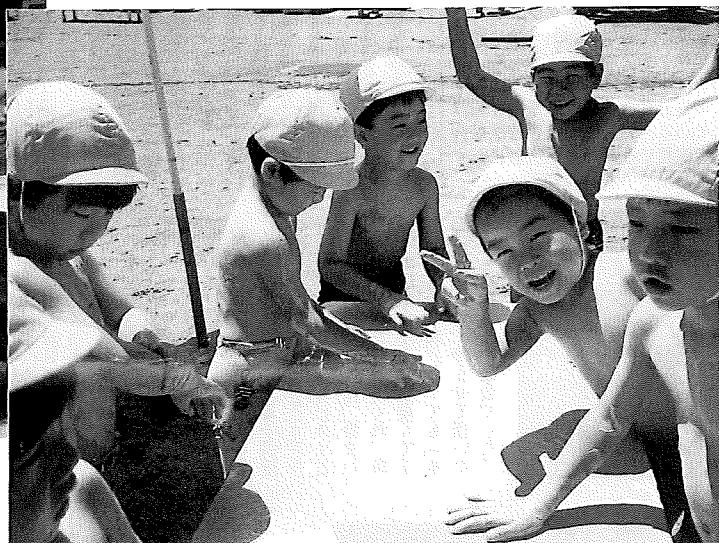
うさぎ 5月号



**さくら**  
9月号

へびだ!! へびだ!!

5日の日、それは突然おこりました。何とインコのかごの中にへびが…。しかも、おなかの中にはインコらしきものが入っているようで、オオカミみたいなお腹だと璃子ちゃん愛野ちゃん。子どもや私たちもキャーキャーだけ見てみたい心境。めったにないチャンスとばかりにへビを触ってごらんというと、弘征くん、智久くんたちが“さらさらしているよ” “O-157にならないよね”と史佳ちゃん、とても心配そう。勇気ある友岐先生ゴム手袋をしてつかみ、木のさわに。しかし、お腹が大きくて入れません。たいへんたいへんと信くん泰造くん。でぶっちょみたいと吏保ちゃん万莉絵ちゃん。みんな拍手で頑張れと応援すると、するするとさわの中に入ってしまい、ひと安心。しかし、生々しい経験ができ子ども達にとって貴重な一日でした。



プール＆ボディペイティング

たんぽぽ 7月号

～もっとやりたいな～

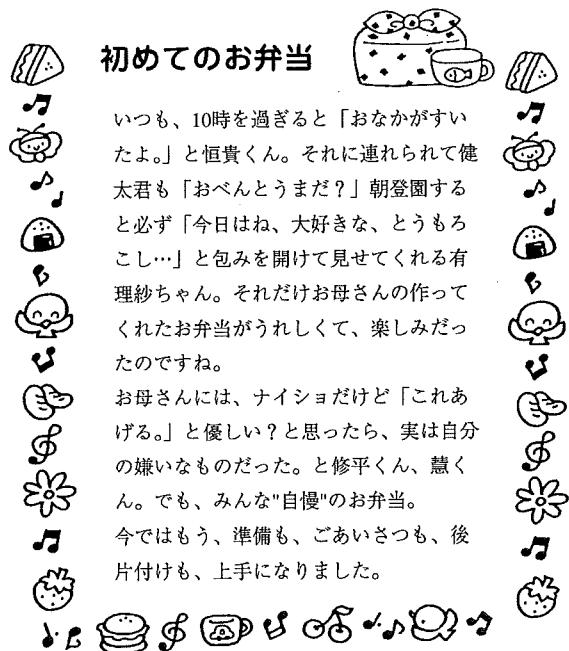
夏本番、とても暑い日が続いています。プール活動は子どもたちも大好きで、ドキドキワクワク、プールを心待ちにしている諒くん、有捺ちゃん。お着替えも早く終わってしまいます。お着替えでピックリしてしまったのは、誰一人出来ない、やってと訴える子がいません。ボタンも苦手な子もいますが、ひとつひとつつっくり取り組むと出来てしまいます。又ワンピースを着てくるとフックがあり出来ない子には私がやってあげると友達同士でやってあげる姿が、見られます。‘先生お着替えしてきても良いよ’私は言われてしまうほどです。こんな姿も見逃さず、出来て当たり前ではなく十分に認めていきたいですね。優ちゃんは自分のお気に入りの水着と帽子をかぶり、いつでも用意OK。準備体操にサークリットを入れるのですが、いつも一生懸命走り、早く到着する龍平君。先日のボディペイティングで一番目を輝かせていたのは庸平君、水着と体の境目が分からぬ位絵の具だけでした。

\*お着替え等も自分でやってみようとする姿が見られます。一人で出来たという満足感を味あわせてあげたいですね。



年長 7月号

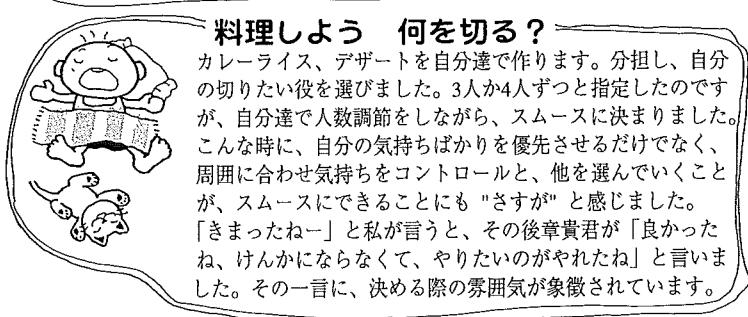
## 初めてのお弁当



いつも、10時を過ぎると「おなかがすいたよ。」と恒貴くん。それに連れて健太君も「おべんとうまだ？」朝登園すると必ず「今日はね、大好きな、とうもろこし…」と包みを開けて見せてくれる有理紗ちゃん。それだけお母さんの作ってくれたお弁当がうれしくて、楽しみだったのです。

お母さんには、ナイショだけど「これあげる。」と優しい?と思ったら、実は自分の嫌いなものだった。と修平くん、慧くん。でも、みんな“自慢”的お弁当。

今ではもう、準備も、ごあいさつも、後片付けも、上手になりました。

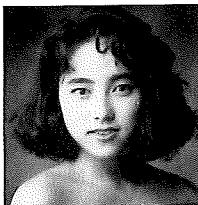


## 料理しよう 何を切る？

カレーライス、デザートを自分達で作ります。分担し、自分の切りたい役を選びました。3人か4人ずつと指定したのですが、自分達で人数調節をしながら、スムーズに決まりました。こんな時に、自分の気持ちばかりを優先させるだけでなく、周囲に合わせ気持ちをコントロールと、他を選んでいくことが、スムーズにできることにも“さすが”と感じました。‘きまったくねー’と私が言うと、その後章貴君が‘良かったね、けんかにならなくて、やりたいのがやれたね’と言いました。その一言に、決める際の雰囲気が象徴されています。

# 1996 音楽の年

本物の音がかけぬけた一年



船津たかねプロフィール

1969年1月生まれ、4歳よりヴァイオリンを始める。桐朋女子高校、同大学ヴァイオリン科卒業。大学在学中に、指揮者故レナード・バーンスタイン氏の主宰するバシフィック・ミュージックフェスティバルのコンサート・マスターを務め、またスペインノムルシア音楽祭に登場し、グランプリを獲得。その後、1991年秋に渡英しロンドンのギルドホール・スクールに在学、卒業後は海外を中心に意欲的な音楽活動を続けている。お父さまは佐野医師会病院長で佐野の地域医療にたずさわっている。

九月十八日文化会館小ホールに於いて、船津たかねさん、幼稚園と保護者会共催の、バイオリン演奏が、牧田有美子さんのピアノ伴奏により行われました。ドボルザーク作曲のユーモレスクと言う曲からはじまり、演奏が終わる寸前、子供達から「きれい」という声が聞こえてきました。自然に出された、このことばで、とても素敵なお色だということがおわかりいただけたかと思います。

次に、リムスキーコルサコフのくまんばちの飛行・世界の民謡スコットジョブのエンターティナー、続いて子供達の大好きなディズニーの曲の数々、そして前半最後にコレリのラフオリアで終わりました。

前半と後半の間に九月のお誕生会も行われ、お誕生会の子供達に「ハッピーバースデーの曲」

も演奏して頂きました。華やかなものとなりました。

そして後半、年少・年中さんは、外でお弁当タイム、年長さんは、お母様方と一緒に聞きました。

途中、山田裕君が舞台に出て「チャーリップ」の曲の予定が「日の丸」の曲に変わってしまったという、たかねさん自身もあとで気がついたというハプニングもありました。

山田さん親子が舞台に出ることになったのは、コンサート前に

春童幼稚園

## ファミリー音楽会



とても喜んでいました。涙を流し、その時の気持ちをお手紙に書いて手渡すという、心温まる場面もありバイオリンの澄んだ音色がいつまでも響いていた素晴らしい演奏会でした。お母様方に感想をうかがいました。

### 「小さな子供にこそ本物を」

年長 山口公子

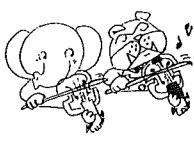
小さな子供にこそ本物を、と言葉の園長先生のお考えのものと

言葉の園長先生の考えのものと

## 「弦との出会い」

教諭 広沢 英子

子ども達って素敵ですね。小さな体の中になんさんのエネルギーを秘めています。今回船津さかねさんの演奏を聞いた子ども達も達最初は何が始まるのか緊張気味だったが、バイオリンの音色だつたが、バイオリンの音色だつたが、バイオリンという新たな(未知の)世界、招き入れてしまう。すると次の瞬間に、バイオリンのメロディーと共に楽ししう音を揺らし聞き入る子ども達がいました。大人はつい、バイオリン!! 難しい、ます構えてしまう。しかし、子ども達にはそんな枠はまったくない。純粹にあるがままを受け止め、どんな新たな世界と出会って、その世界を楽しむ、楽しめる力を持っていると思いまし。今回は文化会館で行われたコンサートの前日に、子ども達がいつもの練習室で、また、午後より年長児のお泊まりがありました。ほとんどの子ども達が、弦で奏でる楽器との初めての出会い。子ども達の純粋な気持ちは興味という出会いを越え、その時を楽しんでしまう力を持つていて、それが、その次の日、「先生見てみて」と空き箱を作ったバイオリンを頭にはさみ歌を口ずさむお友達いました。コンサートを思い、自分がバイオリニストになりきる。なりきるという事は、前日の思いが子ども達の心の中に大きな影響を与えていたのでしょうね。



## 「お食事を共にして」

年中 植名理恵

演奏家リクルートの方が多い?

さかねさんは、気さくで明るいお嬢さんでした。練習が嫌な時期もあったといふ学生時代、イギリスでの先生から、ヴァイオリンの技術だけでなく、色々な体験を通して、内面的なものを育けてなく、なんとバイオリンに触れさせてもらった子ども達。とても貴重な体験をしました。ついで大人はみんなに高価な樂器を…と思い、バイオリンに触れる手もガチガチ。そこへ

くと子ども達、全然臆すことなくむしる貴重な体験を楽しんでいました。

が、弦で奏でる楽器との初め

でいました。

はわからぬ、普段の船津さん

の姿を見ることができ、素晴ら

しい一日でした。



## 「船津は二ユーロ一ク」

年長 宮下淑江

きました。若い彼女の将来を期待し、心から応援し、一層の活躍を祈らずにはいられません。

本当に素敵で心温まる、夏の夕べの音のプレゼントでした。

## ジエニア・ア・櫻楓舎

アンサンブル

びながらもゆづくりとそして確実に、おやすみモードに切り替わっていったようでした。

本当に素敵で心温まる、夏の夕べの音のプレゼントでした。

その心が伝わってくる様で、音が澄んだ秋の空のようでした。

耳の聞こえない方のお話でし

た。「音を聴くことが出来ないの

にどうやって演奏することが…

と思つてしまつたのですが、船

津さんのお話によると、身体に

感じる響きで音の高低を感じ取

り演奏するとのことでした。

その努力のすごさ、音楽を愛する心を感じると共に、不可能

に思える事でも、努力次第で、

可能になる事を思い知りました。

お食事をともにして、演奏会で

に思える事でも、努力次第で、

可能になる事が出来ないの

にどうやって演奏することが…

と思つてしまつたのですが、船

津さんのお話によると、身体に

感じる響きで音の高低を感じ取

り演奏するとのことでした。

その努力のすごさ、音楽を愛

する心を感じると共に、不可能

に思える事でも、努力次第で、

可能になる事が出来ないの

にどうやって演奏することが…

と思つてしまつたのですが、船

津さんのお話によると、身体に

感じる響きで音の高低を感じ取

り演奏するとのことでした。

その努力のすごさ、音楽を愛

する心を感じると共に、不可能

に思える事でも、努力次第で、

可能になる事が出来ないの

にどうやって演奏することが…

と思つてしまつたのですが、船

津さんのお話によると、身体に

感じる響きで音の高低を感じ取

り演奏するとのことでした。

その努力のすごさ、音楽を愛

する心を感じると共に、不可能

に思える事でも、努力次第で、

可能になる事が出来ないの

にどうやって演奏することが…

と思つてしまつたのですが、船

津さんのお話によると、身体に

感じる響きで音の高低を感じ取

り演奏するとのことでした。

その努力のすごさ、音楽を愛

する心を感じると共に、不可能

に思える事でも、努力次第で、

可能になる事が出来ないの

にどうやって演奏することが…

と思つてしまつたのですが、船

津さんのお話によると、身体に

感じる響きで音の高低を感じ取

り演奏するとのことでした。

その努力のすごさ、音楽を愛

する心を感じると共に、不可能

に思える事でも、努力次第で、

可能になる事が出来ないの

にどうやって演奏することが…

と思つてしまつたのですが、船

津さんのお話によると、身体に

感じる響きで音の高低を感じ取

り演奏するとのことでした。

その努力のすごさ、音楽を愛

する心を感じると共に、不可能

に思える事でも、努力次第で、

可能になる事が出来ないの

にどうやって演奏することが…

と思つてしまつたのですが、船

津さんのお話によると、身体に

感じる響きで音の高低を感じ取

り演奏するとのことでした。

その努力のすごさ、音楽を愛

する心を感じると共に、不可能

に思える事でも、努力次第で、

可能になる事が出来ないの

にどうやって演奏することが…

と思つてしまつたのですが、船

津さんのお話によると、身体に

感じる響きで音の高低を感じ取

り演奏するとのことでした。

その努力のすごさ、音楽を愛

する心を感じると共に、不可能

に思える事でも、努力次第で、

可能になる事が出来ないの

にどうやって演奏することが…

と思つてしまつたのですが、船

津さんのお話によると、身体に

感じる響きで音の高低を感じ取

り演奏するとのことでした。

その努力のすごさ、音楽を愛

する心を感じると共に、不可能

に思える事でも、努力次第で、

可能になる事が出来ないの

にどうやって演奏することが…

と思つてしまつたのですが、船

津さんのお話によると、身体に

感じる響きで音の高低を感じ取

り演奏するとのことでした。

その努力のすごさ、音楽を愛

する心を感じると共に、不可能

に思える事でも、努力次第で、

可能になる事が出来ないの

にどうやって演奏することが…

と思つてしまつたのですが、船

津さんのお話によると、身体に

感じる響きで音の高低を感じ取

り演奏するとのことでした。

その努力のすごさ、音楽を愛

する心を感じると共に、不可能

に思える事でも、努力次第で、

可能になる事が出来ないの

にどうやって演奏することが…

と思つてしまつたのですが、船

津さんのお話によると、身体に

感じる響きで音の高低を感じ取

り演奏するとのことでした。

その努力のすごさ、音楽を愛

する心を感じると共に、不可能

に思える事でも、努力次第で、

可能になる事が出来ないの

にどうやって演奏することが…

と思つてしまつたのですが、船

津さんのお話によると、身体に

感じる響きで音の高低を感じ取

り演奏するとのことでした。

その努力のすごさ、音楽を愛

する心を感じると共に、不可能

に思える事でも、努力次第で、

可能になる事が出来ないの

にどうやって演奏することが…

と思つてしまつたのですが、船

津さんのお話によると、身体に

感じる響きで音の高低を感じ取

り演奏するとのことでした。

その努力のすごさ、音楽を愛

する心を感じると共に、不可能

に思える事でも、努力次第で、

びながらもゆづくりとそして確実に、おやすみモードに切り替わっていったようでした。

本当に素敵で心温まる、夏の夕べの音のプレゼントでした。

音が澄んだ秋の空のようでした。耳の聞こえない方のお話でした。

「音を聴くことが出来ないの

にどうやって演奏することが…

と思つてしまつたのですが、船

津さんのお話によると、身体に

感じる響きで音の高低を感じ取

り演奏するとのことでした。

その努力のすごさ、音楽を愛

する心を感じると共に、不可能

に思える事でも、努力次第で、

可能になる事が出来ないの

にどうやって演奏することが…

と思つてしまつたのですが、船

津さんのお話によると、身体に

感じる響きで音の高低を感じ取

り演奏するとのことでした。

その努力のすごさ、音楽を愛

する心を感じると共に、不可能

に思える事でも、努力次第で、

可能になる事が出来ないの

にどうやって演奏することが…

と思つてしまつたのですが、船

津さんのお話によると、身体に

感じる響きで音の高低を感じ取

り演奏するとのことでした。

その努力のすごさ、音楽を愛

する心を感じると共に、不可能

に思える事でも、努力次第で、

可能になる事が出来ないの

にどうやって演奏することが…

と思つてしまつたのですが、船

津さんのお話によると、身体に

感じる響きで音の高低を感じ取

り演奏するとのことでした。

その努力のすごさ、音楽を愛

する心を感じると共に、不可能

に思える事でも、努力次第で、

可能になる事が出来ないの

にどうやって演奏することが…

と思つてしまつたのですが、船

津さんのお話によると、身体に

感じる響きで音の高低を感じ取

り演奏するとのことでした。

その努力のすごさ、音楽を愛

する心を感じると共に、不可能

に思える事でも、努力次第で、

可能になる事が出来ないの

にどうやって演奏することが…

と思つてしまつたのですが、船

津さんのお話によると、身体に

感じる響きで音の高低を感じ取

り演奏するとのことでした。

その努力のすごさ、音楽を愛

する心を感じると共に、不可能

に思える事でも、努力次第で、

可能になる事が出来ないの

にどうやって演奏することが…

と思つてしまつたのですが、船

津さんのお話によると、身体に

感じる響きで音の高低を感じ取

り演奏するとのことでした。

その努力のすごさ、音楽を愛

する心を感じると共に、不可能

に思える事でも、努力次第で、

可能になる事が出来ないの

にどうやって演奏することが…

と思つてしまつたのですが、船

津さんのお話によると、身体に

感じる響きで音の高低を感じ取

り演奏するとのことでした。

その努力のすごさ、音楽を愛

する心を感じると共に、不可能

に思える事でも、努力次第で、

可能になる事が出来ないの

にどうやって演奏することが…

と思つてしまつたのですが、船

津さんのお話によると、身体に

感じる響きで音の高低を感じ取

り演奏するとのことでした。

その努力のすごさ、音楽を愛

する心を感じると共に、不可能

に思える事でも、努力次第で、

可能になる事が出来ないの

にどうやって演奏することが…

と思つてしまつたのですが、船

津さんのお話によると、身体に

感じる響きで音の高低を感じ取

り演奏するとのことでした。

その努力のすごさ、音楽を愛

する心を感じると共に、不可能

に思える事でも、努力次第で、